

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を基にした 小学校国語科の授業づくり サポートガイド





はじめに



表紙の子どもたち、とても熱心に学習していますね。

本当ですね。
それに、どの子どもも、とても楽しそうに学習しているように見えますね。



どうしたらこんな姿が見られるようになるのでしょうか。



センターン

その理由、私がお答えしましょう！

どうしたら、表紙の写真のような子どもたちの姿が、見られるようになるのですか？



それは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を基に、児童が主体となる授業づくりを続けているからなんです。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を基にした授業づくりって、どういうものなんですか？



児童が主体となる授業ってどんな授業ですか？



では、私と一緒に授業づくりについて学んでいきましょう。



目次

はじめに

ガイド1

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について知ろう … 1

ガイド2

児童が主体となる授業づくりを考えよう … 2

ガイド3

児童の姿をイメージしながら単元構想をしよう … 3

ガイド4

「主体的に学習に取り組む態度」を評価する
1 単位時間の授業を構想しよう … 4

A 「話すこと・聞くこと」の実践事例 … 5

B 「書くこと」の実践事例 … 7

C 「読むこと」(説明的な文章)の実践事例 … 9

C 「読むこと」(文学的な文章)の実践事例① … 11

C 「読むこと」(文学的な文章)の実践事例② … 13

おわりに





「主体的に学習に取り組む態度」の評価について知ろう



黒板の内容をきれいにノートにまとめたり、積極的に手を挙げて発言したりするような、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、児童一人ひとりが自ら試行錯誤しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが大切です。

そうなんです。具体的には、どのような姿を考えて、評価していくとよいのでしょうか？



「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、**粘り強さ**と**学習の調整**の二つの側面から評価することが求められています。

粘り強さの側面とは、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面のこと。

学習の調整の側面とは、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面のこと。

文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語」を参考に作成



粘り強さを発揮する姿と、学習の調整を行う姿は、学習の中で相互に関わり合いながら現れるものと考えられます。具体的には、下の例に挙げているような子どもの姿を引き出して、評価できるといいですね。

評価する際の具体的な児童の姿の例

- 学習のゴールに向かって粘り強く取り組む姿。
- 見通しをもって学習方法や学習の進め方を自分で選択する姿。
- 目的に応じて交流を繰り返したり、教材を繰り返し読んだりする姿。

どの姿も、子どもたちが主体的に学習している様子が思い浮かびますね。このような姿を引き出すためには、どのような授業づくりが必要なのでしょう？



それでは、具体的な子どもたちの姿をイメージしながら、授業づくりに大切なポイントを考えていきましょう。

児童が主体となる授業づくりを考えよう

授業づくりでは、粘り強く学習に取り組む中で、学習の調整を行っている具体的な児童の姿を想定し、児童が主体となる授業を構想することが大切です。そうすることで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげることができます。



子どもが主体となる授業づくりの4つのポイントを紹介します。

✔ ポイント1【言語活動】

単元における指導の重点を明確にし、魅力的な言語活動を設定する。

単元における指導事項の中から、特に重点を置いて指導する「指導の重点」を明確にしておきましょう。

国語科では、言語活動を通して資質・能力を育成することを目指すと言われています。言語活動を設定する際は、児童にとって魅力的な言語活動となるように工夫しましょう。



子どもにとってわかりやすい言葉を使い、子どもが「取り組んでみたい」「できるようになりたい」という気持ちになるよう、魅力的な言語活動にしましょう。

✔ ポイント2【学習活動】

児童が、学ぶ価値、必然性を実感できるような学習活動を設定する。

児童が、「考えたい」「解決したい」と思えるような、学びの必然性がある学習活動になるように工夫しましょう。学習活動が設定できたら、児童が学びを実感できるようにするための手立てを考えましょう。

私たちの学校の魅力はたくさんあるね。どんな見出しにすると、その魅力が伝わるかな。



✔ ポイント3【粘り強さ】

児童一人ひとりが粘り強く学習に取り組めるように、学習方法を選択できるようにする。

児童の思考に合わせて、並行読書材やワークシート、学習のまとめ方を選択できるように工夫することで、児童一人ひとりにとって最適な形で、粘り強く学習に取り組むことができます。

どんな本を選んだの？
ぼくは、クマの本を選んだよ。この本を使って、「すごい」を伝えることにしたんだ。



✔ ポイント4【学習の調整】

児童が交流や話し合いなどのやりとりに臨み、考えを再構築するためには、目的に応じて交流する相手を選択できるようにする。

交流や話し合いにおいて、ICT機器や並行読書マトリックスを活用することで、児童は自ら学習の調整を行い、自分の考えを再構築するために、最適な相手を選んで交流することができます。

今日は、同じ本を読んでいる友達と交流して、どんな感じ方をしているのか聞いてみよう。
え〜っと、同じ本を読んでいる人は…



次のページでは、単元構想と、1時間の授業づくりについて、一緒に学んでいきましょう。



どのポイントも、子どもが主体的に学習に取り組むための手立てになっているんですね。



児童の姿をイメージしながら単元構想をしよう



単元構想をするときは、育成を目指す資質・能力を明確にするところから始めましょう。次に、単元のゴールから逆算して、子どもたちが、どのような場面で、どんなことができるようになるかイメージを想定しましょう。そうすることで育成を目指す資質・能力からずれることなく、単元の流れが考えやすくなります。

単元構想をするときに、「国語科単元構想シート」を活用すると、指導事項や言語活動、評価規準などを関連付けて考えることができます。

① 単元目標

学習指導要領や解説を基に、育成を目指す資質・能力を明確にしましょう。

② 単元で取り上げる言語活動

言語活動の目的や相手を明確にし、児童にとって魅力的な言語活動となるように工夫しましょう。

③ 評価規準

「主体的に学習に取り組む態度」については、**粘り強さ**と**学習の調整**の二つの側面を踏まえ、育成を目指す資質・能力と言語活動に応じて設定しましょう。

国語科単元構想シート 第4学年 組() 名() 業者()		単元名「お話の『じーん』としたところを紹介しよう」全11時間 教材名「ごんぎつね」(光村図書4年下)		
単元目標 (単元で育成を目指す資質・能力) ◎…指導の重点	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがみられるように意識すること。【知識及び技能】(1)オ	評価規準		
	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがみられるように意識すること。【知識及び技能】(1)オ ◎言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書を楽しむ。国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】	知識・技能 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 ((1)オ)	思考・判断・表現 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。 (C(1)エ)	主体的に学習に取り組む態度 進んで、登場人物の気持ちの変化について場面の移り変わりや結び付けて想像し、学習課題に沿って考えたことを友達に伝えようとしている。
単元で取り上げる言語活動 お話を読んで「じーん」としたところを、登場人物の気持ちの変化に注目して「じーんカード」にまとめ、紹介する。				
単元の流れ ★「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間		「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学び姿		
①今までの読書経験の中で、「じーん」としたところがあるか尋ね、「じーん」としたところについて共通理解を図る。「ごんぎつね」を読み、初発の段階で「じーん」としたところに付箋をつける。 ②「ごんぎつね」を読み、「じーん」としたところについて学級で共有する。教師のモデル「じーんカード」から、学習のゴールを共有するとともに、登場人物の気持ちの変化の場面の移り変わりの結び付け方について学び、単元計画を立てる。 ③「ごんぎつね」の設定や構成、登場人物の関係等、物語の大体を捉える。 ④⑤「ごんぎつね」を読み、「じーん」としたところを見つけ、その根拠として、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりや結び付けながら想像する。★ ⑥「ごんぎつね」の「じーんカード」をまとめる。(⑦までに、並行読書した本の中から紹介したい本を選んでおく。) ⑦自分が選んだ1冊についての設定や構成、登場人物の関係等、物語の大体をとらえる。 ⑧⑨自分が選んだ1冊を読み、「じーん」としたところを見つけ、その根拠として、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりや結び付けながら想像する。★ ⑩自分が選んだ1冊の「じーんカード」をまとめる。 ⑪「じーんカード」で物語を紹介し合い、単元の学習を振り返る。		A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】 物語を読んで、「じーん」としたところを見つけている。 情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】 物語を読んで、「じーん」としたところについて、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりに関連付けて見つけている。 自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】 友達に紹介したい「じーん」とした場面とその理由について、自分の考えを明確にし、まとめている。	B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力 交流を通して、様々な気持ちの変化を見つけている。 友達と一緒に登場人物の気持ちの変化を叙述から考えることで、自らの考えを広げている。 友達とのやりとりを通して、友達に紹介したい「じーん」とした場面とその理由について、自分の考えを明確にしている。	指導の手立て 「個別最適な学び」【個】・「協働的な学び」【協】 ・「切ない結末」「登場人物の気持ちの変化する」作品を並行読書の本として用意する。【個】 ・並行読書マトリックスを活用し、誰がどの本を読んだのか一目で分かるようにするとともに、目的に応じた交流相手を選べるようにする。【個】【協】 ・「じーんカード」のモデルを示し、登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わりの結び付け方が分かるように教室に掲示するとともに、単元の見通しをもって学習計画を立てられるようにする。【個】【協】 ・様々な場面から、「じーん」とした場面とその理由とのつながりが見られるように、本文を全文掲示したものを用意する。【個】【協】 ・交流のモデル動画(ペア・グループ)を指導者が作成し、児童がタブレットでいつでも確認できるようにする。【個】

④ 単元の流れ・「読み解く力」の視点

単元の流れは、育成を目指す資質・能力を明確にし、単元のゴールから逆算して「何を」「どこで」学習するのか考えましょう。特に児童が主体となって学習に取り組む時間は、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間として扱います。

「読み解く力」の二つの側面と三つのプロセスから、具体的な児童の姿を想定しましょう。

⑤ 指導の手立て

想定した児童の学びの姿につながるように、児童が学習の進め方を考え、学習方法を選択する「個別最適な学び」と目的意識をもって他者とのやりとりをする「協働的な学び」の両面から、指導の手立てを考えましょう。

「主体的に学習に取り組む態度」を評価する 1 単位時間の授業を構想しよう

ガイド
4



単元の中で、「主体的に学習に取り組む態度」を重点的に評価する時間を設定しましょう。

次に、①本時で育成を目指す資質・能力、②本時の目標、③「読み解く力」の視点、④本時の評価規準、⑤評価する際の具体的な児童の姿、⑥本時の展開を想定しましょう。具体的な児童の姿を想定し、手立てを考えておくことで、子ども一人ひとりの学習の様子を見取ることができ、最適な支援を行うことができます。

「国語科授業ナビシート」を活用すると、これらを関連付けて考えることができます。

①本時で育成を目指す資質・能力

三つの観点の中から、本時で特に育成を目指すものを選びましょう。

②本時の目標

本時で児童に付けたい力を明確にしましょう。

④本時の評価規準

単元の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準と、本時の目標を踏まえ、児童が粘り強さを発揮する中で、学習の調整を行う姿を具体的に想定しましょう。

③「読み解く力」の視点

「国語科単元構想シート」で想定した児童の姿から、本時の学習に関わる部分を記入しましょう。

国語科授業ナビシート 小学校 第4学年 組() 名) 授業者 単元名「お話の『じーん』としたところを紹介しよう」 第9時/全11時	
○本時で育成を目指す資質・能力 (いずれかに○をつける) () 読解力 () 思考力・判断力・表現力等 () 学びに向かう力、人間性等	○本時における「読み解く力」の視点 友達に紹介したい「じーん」とした場面とその理由について、自分の考えを明確にし、まとめている。【A③】 友達とのやりとりを通して友達に紹介したい「じーん」とした場面とその理由について、自分の考えを明確にし、まとめている。【B③】
○本時の目標 他者とのやりとりや、本を読み返すことを通して、紹介したい「じーん」としたところについて、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像することができる。	
○本時の評価規準 評価規準 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像するために、進んで他者とのやりとりをしようとして、本を読み返そうとしてしている。【主体的に学習に取り組む態度】	
評価する具体的な児童の姿 ◎他者とのやりとりや本を読み返すことを繰り返し、紹介したい「じーん」としたところについて、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しようとしている。 ○他者とのやりとりや本を読み返すことを通して、紹介したい「じーん」としたところについて、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しようとしている。 △他者とのやりとりや本を読み返すことをしよとせず、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しようとしていない。	
○本時の展開 (めあてや学習課題、学習活動、予想される児童の姿、指導の手立て、★評価を行う場面 等) ①学習の見通しをもつ。 ・前時までの振り返りと本時のめあての確認をする。 めあて 「じーん」としたところの登場人物の気持ちが変わったのかを、前や後の場面とくらべて考えよう。 ・指導者のモデルを提示し「じーん」としたところの登場人物の気持ちの変化を、場面の移り変わり結び付けて考えることを確認する。 ・必要に応じて友達と自由やりとりをしてよいことを伝える。 ・登場人物の気持ちの変化について、自分が納得できるまで考えられたら、「じーんカード」にまとめてよいことを伝える。	
②友達とのやりとりを通し、自分に合った方法で、紹介したい「じーん」としたところを考え、交流する。【A③】【B③】★(行動・発言) ◎予想される児童の姿とそれに対する指導の手立て 気持ちの変化を前後の場面と比べて考えられない児童 ・並行読書マトリックスを掲示し、目的に応じて交流する相手を選ぶようにする。 ・「じーん」としたところの前後の場面を読み返して、登場人物の気持ちについて考えたことを指導者ややりとりをする中で、気持ちの変化の想像の仕方について、つかめるようにする。 気持ちの変化を考えたことができた児童 ・目的に応じて交流したい相手を選び、考えたことや想像したことを伝えて、まとめられる自信がもてたら「じーんカード」にまとめるように促す。	
③学習を振り返る。★(振り返りシート) ・学びの足あとシートに本時の振り返りを書くように促す。 ・振り返りの視点として以下を示す。 誰とやりとりをしたか わかったことや考えたこと まだ少し困っていること 次の時間にできるようにになりたいこと <想定する○評価の振り返り> ○○さんの考えを聞いて、本をもう一度読んで、登場人物の気持ちがどう変わったのかを考えることができました。 「じーん」としたところの登場人物の気持ちの変化を前の場面とくらべて考えることができました。	

⑤評価する具体的な児童の姿

本時で、児童がどのような姿を見せることができればよいのかを具体的に記入します。○(おおむね満足できる状況)の姿を基に◎(十分満足できる状況)や△(努力を要する状況)の姿を考えると、想定しやすくなります。

授業中に△と想定した児童の姿が見られた場合には、どのような手立てが必要なかを事前に考えておくことで、児童に最適な支援を行うことができます。

⑥本時の展開

評価する具体的な児童の姿を基に、本時の展開を考えましょう。児童が学習方法を選択し、目的意識をもって他者とのやりとりに臨めるようにするなど、具体的な指導の手立てを考えましょう。

展開の中で、重点的に評価する活動には★を付けましょう。

A「話すこと・聞くこと」の実践事例

第6学年「繋がれ! A小っ子~コロナ禍でも楽しめる遊びを計画しよう~」 教材名「みんなで楽しく過ごすために」(光村図書)

ポイント1【言語活動】

児童の実生活に基づいて、実現可能な議題から言語活動を設定したことで、児童が目的を明確にして、学習に取り組むことができました。



単元の学習に対する自分のめあてを考える児童

国語科単元構想シート 第6学年 (名) 授業者

単元名「繋がれ! A小っ子~コロナ禍でも楽しめる遊びを計画しよう~」 全7時間
教材名「みんなで楽しく過ごすために」(光村図書6年)

単元目標 (単元で育成を目指す資質・能力) ◎…指導の重点	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。 [知識及び技能] (1)ア	評価規準		
	◎互いの立場や意図を明確にし、話し合いの進め方を計画しながら話し合えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] A(1)オ	知識・技能 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 ((1)ア)	思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたり、まとめている。 (A(1)オ)	主体的に学習に取り組む態度 積極的に考えを広げたり、まとめたりし、学習課題に沿って、目的や条件に応じて計画的に話し合おうとしている。

単元で取り上げる言語活動
 コロナ禍でも楽しめる異学年交流の企画について、互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合う。

単元の流れ ★「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間 ①学習のゴールを共有し、学習の見通しをもつ。 ②話し合いの目的や条件を基に、話し合いの進行計画を立てる。 ③グループで話し合うために、自分の主張とその理由や根拠が明確になるように整理する。 ④それぞれの考えの相違点や問題点、改善点などを明らかにし、仮の結論を出す。★ ⑤⑥仮の結論で決まった遊びを試し、さらなる改善点を見つけ、話し合い、最適解を導き出す。 ⑦話し合った結果や感想、エピソードなどを報告し、学習を振り返る。	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿 A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	指導の手立て 「個別最適な学び」【個】・「協働的な学び」【協】 ・自分たちの力で解決したり、実施したりできる課題を取り上げ、学習意欲を高める。【個】 ・内容面で目的を達成すること、話し合うことで資質・能力を高めていくことの両面から捉えられるようにする。【協】 ・教科書P133「進め方の例」を参考に、既習の内容を生かして、「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」を意識して計画できるようにする。【協】 ・目的や条件を確かめ、P134「考えをノートに書き出した例」やP254「考えを図で表そう」を参考に整理するよう促す。【個】 ・話し合うことの優先順位や時間を意識し、考えを広げたりまとめたりできるようにする。【協】 ・話し合った内容に応じて、特別活動等と連携したり、試行できる場を用意したりする。【協】 ・話し合いの記録や振り返りを読み返して、身に付いた力やこれから気を付けていきたいことを話し合い、今後に生かす意欲をもてるようにする。【個】
---	--	---

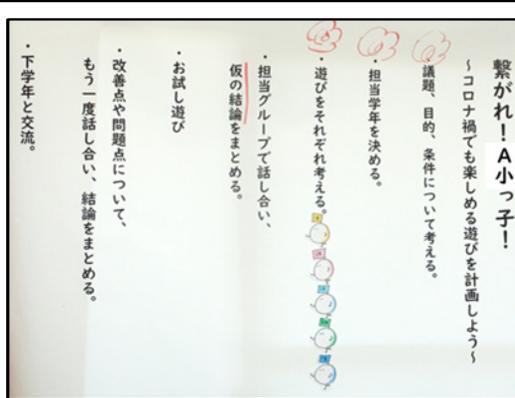
この時間の詳細は、
授業ナビシートへ

ポイント2【学習活動】

みんなで協力して解決に至ることができる議題を取り上げて学習計画を立てることで、児童が主体的に学習に取り組めるようになりました。



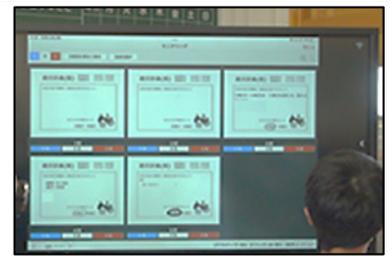
「遊びを計画しよう」のように身近な議題の方が、子どもは見通しをもって学習に取り組むことができますね。単元を通して目的意識をもち続けることもできます。



常に教室に掲示されていた学習計画

✔ ポイント3【粘り強さ】

話し合い活動では、「仮の結論」に至るまでに必要な時間は様々であるため、指導者が時間を区切ることなく、活動の時間や話し合う内容を見童に委ねました。そのことで、じっくり話し合うことを優先したり、ICT機器を活用し、情報を共有したりするなど、それぞれのグループのペースで学習を進めていくことができました。



ICT機器を活用した情報共有

国語科授業ナビシート

小学校 第6学年 組()名 授業者

単元名「繋がれ! A小っ子! ~コロナ禍でも楽しめる遊びを計画しよう~」 第4時/全7時

○本時で育成を目指す資質・能力 (いずれかに○をつける)
()知識及び技能 ()思考力・判断力・表現力等

(○)学びに向かう力、人間性等

○本時における「読み解く力」の視点

仮の結論を出すために、自分の主張と友達的主張を比較し、相違点や問題点、改善点を明らかにしている。【A②】
仮の結論を出すために、自分の主張と友達的主張を比較し、相違点や問題点、改善点について話し合っている。【B②】

○本時の目標

互いの立場を明確にしなが、計画的に話し合い、仮の結論を導き出すことができる。

○本時の評価規準

評価規準

活動をよりよいものにするために、計画的にグループで話し合いながら仮の結論を導き出そうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

評価する具体的な児童の姿

- ◎友だちの考えに対して、主体的に相違点、問題点、改善点を伝えたり、担当する学年の状況を考えたりしながら、グループで仮の結論を導き出そうとしている。
- 友だちの考えに対して、良いところや改善点を伝えて、グループで仮の結論を導き出そうとしている。
- △自分の考えを発表しようしたり、友達考えに対して意見を述べたりしようせず、グループで仮の結論を導き出すことにつなげようとしていない。

○本時の展開 (めあてや学習課題、学習活動、予想される児童の姿、指導の手立て、★評価を行う場面 等)

①学習の見通しをもつ。

・前時の学習を生かして、自分の考えを基に話し合うことを確認する。

めあて

自分の考えをもとに、意見を出し合いながら、学年に応じた遊びの内容を考え、仮の結論を導き出そう。

・話し合いの視点を確認する。

話し合いの視点

話し合いで何を決めようとしているのか、目的を明確にする。
考えの共通点や相違点等を出し合う中で、解決すべき点に焦点を当てたり、互いに歩み寄れる点を見つけたりする。

②自分の考えを基に、グループで内容を整理し、仮の結論を導き出す。【A②】【B②】★(行動・発言)

◎予想される児童の姿とそれに対する指導の手立て

友達の意見に流されてしまう児童

・グループで話し合っている遊びの内容が、担当学年にふさわしい内容やルールになっているか考えるよう促す。

自分の主張にこだわりをもっている児童

・自分の主張が、担当する学年に応じたものになっているのか、意見を求めるよう促す。

・自分の主張と友達の主張の相違点や問題点を比較するように促す。

自分の主張と友達的主張を比べられる児童

・自分の考えと、友達考えとの共通点や相違点を見つけたり、相違点、問題点、改善点を話し合ったりして仮の結論を導き出せるようにする。

③学習を振り返る。

・学びの足あとシートに本時の振り返りを書くように促す。

・振り返りの視点として以下を示す。

誰とやりとりをしたか
わかったことや考えたこと
まだ少し困っていること

<想定する○評価の振り返り>

友達と話し合うことで、自分では分からなかった問題点に気付くことができました。二人の友達の意見と合わせると、遊びが工夫できそうなので、試してみたいです。

友達の意見を聞いて、自分の意見と似ているところに気付きました。下学年のことを考えると、もう少し工夫が必要だと感じたので、ルールを付け足したいです。

✔ ポイント2【学習活動】

授業の始めに、話し合いの視点を見童と確認したことで、見童は主張を比べ合ったり、計画的に話し合ったりすることができました。



互いの主張を比べ合う児童



めあての達成に向けて計画的に話し合う児童

児童の様子から見取った粘り強さや学習の調整の姿

- ・仮の結論を導き出すという目的を明確にして、互いの主張を比べ合っている姿。
- ・互いの立場を明確にしなが、改善点に焦点を当て、計画的に話し合っている姿。

学級全体で交流の目的を確認した後は、グループごとに話し合う時間を委ねることで、子どもがこんなにも主体的に話し合うことができるのですね。



B「書くこと」の実践事例

第4学年「小さな新聞記者誕生！B小学校のみりよくを伝える新聞を作ろう！」 教材名「新聞を作ろう」(光村図書 上)

ポイント1【言語活動】

新聞記者になりきって、学校の魅力を伝えるという言語活動を設定したことで、児童の学びの実感につながりました。

国語科単元構想シート 第4学年 組()名 授業者		単元名「小さな新聞記者誕生！B小学校のみりよくを伝える新聞を作ろう！」 全12時間 教材名「新聞を作ろう」(光村図書 4年上)	
単元目標 (単元で育成を目指す資質・能力) ◎指導の重点	○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ア ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ ○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」	評価規準	
		知識・技能 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解し使っている。(2)イ	思考・判断・表現 ①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)
単元で取り上げる言語活動 B小学校の魅力を伝えるために、情報を収集・整理して記事を書き、読者が読みたくなる見出しを付けた新聞を作る。			
単元の流れ ★「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿		指導の手立て (個別最適な学び【個】 協働的な学び【協】)
①学習のゴールを共有し、学習の見通しをもつ。 ②新聞作成会議をして、グループごとにテーマ新聞作成計画を立てる。 ③新聞の作り方とアンケートの取り方を学ぶ。 ④⑤⑥記事を書くための情報を集める。 ⑦⑧⑨割り付けを考え、相手にわかりやすく伝える記事を書く。 ⑩読みたくなる記事の見出しを考える。★ ⑪記事を読み直し、よりよい文章に仕上げる。 ⑫新聞を読んで、よいところを話し合い、学習振り返る。	A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】 実際の新聞から、見出しや記事、図、絵、写真など、読み手にわかりやすく伝えるための工夫を見つけている。 情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】 収集した情報を、伝えたいことに合わせて取捨選択し、記事に用いる情報を選んでいる。 自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】 記事の内容を基にして、読者が読みたくなる記事の見出しを考えている。	B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力 紙面に載せるための情報を考え、インタビューやアンケート調査などを用いて情報収集している。 自分と友達の考えを比較し、用いる情報を決めて記事にしている。 グループ交流を通して、見出しに用いる言葉を見直し、よりよいものになっている。	・「学校の魅力を伝える新聞」にすることで、児童が身近なテーマから記事の内容を考えられるようにする。【個】 ・廊下に新聞コーナーを設け、様々な種類の新聞を置くことで、児童が新聞に興味をもてるようにする。【個】 ・振り返りの際は、学習課題をどの程度、達成できたかを児童が自覚できるようにし、次の学習につなげられるようにする。【個】 ・グループで新聞作成を行うことで、記事や見出しについてグループの友達と協力して推敲できるようにする。【協】 ・ICTを活用し、児童が試行錯誤したり、作業内容をグループで共有したりできるようにする。【個】【協】

この時間の詳細は、
授業ナビシートへ

ポイント1【言語活動】

指導者が児童に示す言語活動のモデルを事前に作成し、常に教室に掲示して、児童と共有することで、児童が「何を」「どのように」書けばよいのかいつでも振り返ることができました。

言語活動のモデルを指導者が示すことで、子どもたちは「モデルのような作品を作りたい!」という意欲をもって学習に取り組むことができます。また、指導者からの一方的な指導に頼ることなく、児童は、試行錯誤しながら主体的に学習に取り組むことができます。



指導者が作成した壁新聞のモデル

✔ ポイント2【学習活動】

読みたくなるような見出しを考える時間を確保することで、児童は自分が書いた記事の内容を何度も読み返し、考えをまとめることができました。



記事の見出しを考える児童

国語科授業ナビシート

小学校 第4学年 組()名 授業者 単元名「小さな新聞記者誕生！B小学校のみりよくを伝える新聞を作ろう」 第10時/全12時

○本時で育成を目指す資質・能力 ()知識及び技能 ()思考力

かに○をつける) 判断力・表現力等 (○)学びに向かう力、人間性等

○本時における「読み解く力」の視点

記事の内容を基にして、読者が読みたくなる記事の見出しを考えている。【A③】
グループ交流を通して、見出しに用いる言葉を見直し、よりよいものになっている。【B③】

○本時の目標

記事の内容を読み返したり、グループ交流を通して、読者が読みたくなる記事の見出しを考えることができる。

○本時の評価規準

評価規準

進んで相手や目的を意識して、読者が読みたくなるような記事の見出しを試行錯誤しながら考えようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

評価する具体的な児童の姿

- ◎記事の内容にふさわしく、読みたくなるような見出しになるように、グループ交流や見出しのポイントを基にして考え、よりよい見出しを目指している。
- グループ交流を通して、読みたくなるような見出しを自分なりに考えようとしている。
- △記事の内容に合った見出しを考えるために、グループ交流したことを踏まえようとしていない。

○本時の展開 (めあてや学習課題、学習活動、予想される児童の姿、指導の手立て、★評価を行う場面 等)

①学習のゴールを確認し、振り返りを基に学習活動に見通しをもつ。

めあて
読者が読みたくなる記事の見出しを考えよう。

②記事の例を読み、見出しの効果について考える。
・見出しが異なる二つの記事を比べることで、伝えたいことが明確に伝わる見出しになっているか確認し、見出しのポイントをまとめる。

見出しのポイント

短い言葉で書く。
問いかけや呼びかけの言葉を取り入れる。
注目してほしい言葉には「」をつける。
自分が伝えたいこと、見出しが合っているか確認する。
自分の思いを込めた見出しにする。

③新聞記事にふさわしく、記事を読みたくなるような見出しになるように考え、交流する。
【A③B③】★(交流の様子・ワークシート)

◎予想される児童の姿とそれに対する指導の手立て
見出しの言葉がなかなか見つからない児童
・下書きを読んで、伝えたい内容を確認したり、グループ内でヒントをもらったりするように促す。
下書きの文章から抜き出している児童
・見出しのポイントに沿って、自分が考えた見出しを見直すよう促す。

下書きや見出しのポイントを基に、内容にふさわしい見出しを考えている児童
・理由とともに見出しを紹介し、もっとよい見出しはないか意見を求めるよう促す。

④学習を振り返る。

・本時の学習内容だけでなく、次時への意欲がもてるように、次の時間に取り組みたいことについても考えるよう促す。
・数人の振り返りを紹介し、学習を振り返るとともに次時への意欲を付けられるようにする。

<想定する○評価の振り返り>

見出しのポイントを使って言葉を考えると、読みたくなるような記事の見出しになることが分かりました。

友達の意見を聞いて、見出しを短くして、読みやすくしました。

友達の意見を参考にして、いい見出しを考えることができたと思います。

✔ ポイント3【粘り強さ】

児童のつぶやきからまとめた「見出しのポイント」を学級全体で確認したことで、交流の目的が明確になったため、児童はよりよい見出しになるように交流することができました。



よりよい見出しにするために交流する児童

児童の様子から見取った粘り強さや学習の調整の姿

- ・読者が読みたくなるような見出しを考えるために、自分の記事を読み返している姿。
- ・「見出しのポイント」を基に、試行錯誤しながらよりよい見出しになるように考えている姿。

子どもたちのつぶやきから「見出しのポイント」をまとめることで、子どもが学びを実感することができるのです。



C「読むこと(説明的な文章)」の実践事例

第2学年「どうぶつの『すごい』を伝えよう」 教材名「ビーバーの大工事」(東京書籍 下)

ポイント1【言語活動】

児童にとってわかりやすい言葉を使って、言語活動を設定したことで、目的意識が明確となりました。また、身近である「お家の人」に伝えると設定したことで、相手意識が明確となり、児童は粘り強く学習に取り組むことができました。

国語科単元構想シート 第2学年 組()名 授業者 単元名「どうぶつの『すごい』を伝えよう」 全9時間
教材名「ビーバーの大工事」(東京書籍 2年下)

単元目標 (達成度育成を目指す 資力・能力)	○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 【知識及び技能】(2)ア	評価規準		
	◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎指導の重点	○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、「思いや考えを伝え合おうとする。」 「学びに向かう力、人間性等」	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア)	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1)ウ)	進んで文章の中から伝えたい語や文を選び、学習の見通しをもって自分の好きな動物について調べ、お家の人に紹介しようとしている。

単元で取り上げる言語活動

自分の好きな動物について調べ、文章の中から自分が伝えたいと思う語や文を選び出し、分かったことなどをお家の人に伝える。

単元の流れ ★「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿		指導の手立て 「個別最適な学び」【個】・「協働的な学び」【協】
①学習のゴールを共有し、学習の見通しをもつ。 ②教材文の内容の大体を捉える。 ③④教材文の中から、ビーバーの「すごい」と思ったところを見つける。 ⑤教材文の中から見つけたビーバーの「すごい」ところについて友達に伝える。 ⑥⑦並行読書材の中から、自分の好きな動物の「すごい」と思ったところを見つける。 ⑧自分の好きな動物の「すごい」と思ったところについて紹介し合い、伝えたいことを明確にする。★ ⑨自分の好きな動物について調べたことをお家の人に伝え、学習を振り返る。	A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	・できるだけ児童がたくさんの本に触れられるように、学校図書と連携を取る。【個】 ・本単元に入る前に、動物の生態についての内容が掲載された本を人数以上に用意しておく。【個】 ・事前に児童の興味・関心に合った内容を調査しておき、誰がどんな本を読んでいるのか確認できるように並行読書マトリックス表を作成する。【個】 ・誰がどの本を選んでいるのか、どの本を読んだのかを一覧にまとめ(並行読書マトリックス表)、児童が目的に応じて交流する相手を選べるようにする。【協】 ・児童の興味・関心に合わせて、様々な動物の「すごい」が見つけれられるように本を準備するが、相手に伝えて分かる動物(動物園にいる動物)に限定することで、交流が活発にできるようにする。【協】 ・文章の中から重要な語や文を選ぶように、指導者がモデルを示し、児童が見通しをもって学習課題に取り組めるようにする。【個】 ・自分の説明の仕方が相手に伝わるかどうか確認し、修正できるようにタブレット端末の動画撮影機能を活用できるようにする。【個】【協】 ・具体的な写真等を使って説明ができるように、タブレットの写真撮影機能を活用し、必要な説明ができるようにする。また、振り返りができるようにする。【個】 ・自分の興味・関心に合わせ、複数の動物の「すごい」を見つけ、付箋を活用し、その中から一番伝えたいことを整理して伝えることができるようにする。【個】 ・教材文「ビーバーの大工事」の文章を拡大した紙を基に、付箋で児童の伝えたいことを貼り出し、伝えたいことをはっきりさせることで、友達にどう伝えればよいのか練習し、その後の自分の好きな動物の「すごい」が伝えられるように、単元の流れを設定する。【個】【協】
この時間の詳細は、 授業ナビシートへ	必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】 本や教科書から動物の「すごい」について見つけている。 友達と交流することを通して、友だちが着目した動物の「すごい」について理解している。		
	情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】 本や教科書の中から見つけた動物の「すごい」について、伝えたいところを選んでいく。 動物の「すごい」について、自分が選んだところを友達に伝えている。		
	自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】 自分の好きな動物の「すごい」を伝えるために、重要な語や文を考えて選び出している。 友達とのやりとりを通して、「すごい」を伝えるための重要な語や文を明確にしている。		

ポイント3【粘り強さ】

自分の好きな動物の本の中から、「すごい」を見つけ、その中から一番伝えたいことを整理できるように付箋を活用しました。



並行読書材に友達が書いた付箋がついていると、どんなところが「すごい」と感じたのか、その部分を読みたくなります。



動物の「すごい」を見つけるために児童が並行読書材に付けた付箋

✔ ポイント4【学習の調整】

児童が「すごい」と感じた理由を明確にできるように、交流を繰り返す時間を十分確保することにしました。

児童は、交流を繰り返すうちに、伝えたいことをはっきりさせることができました。



すごいと感じた理由を伝える児童

国語科授業ナビシート

小学校 第2学年 組()名 授業者

単元名「どうぶつの『すごい』を伝えよう」

第8時/全9時

○本時で育成を目指す資質・能力 (いずれかに○をつける)
 ()知識及び技能 ()思考力・判断力・表現力等

(○)学びに向かう力、人間性等

○本時における「読み解く力」の視点

自分の好きな動物の「すごい」を伝えるために、重要な語や文を考えて選び出している。【A②】
 自分が伝えたいことが伝わるように、友だちと交流することを通して、自分の伝えたいことを明確にしている。【B②】

○本時の目標

他者とのやりとりを通して、自分の好きな動物について書かれた文章から、伝えたい語や文を選び、伝えたいことを明確にすることができる。

○本時の評価規準

評価規準

自分の好きな動物の説明が書いている本から、伝えたい語や文を選び、伝えたいことを明確にしようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]

評価する具体的な児童の姿

◎自分の好きな動物の本を何度も読み返して、自分の伝えたい語や文を選び出し、友達とのやりとりを繰り返して自分のより伝えたいことをはっきりさせようとしている。
 ○自分の好きな動物の伝えたいことを選び出し、自分の伝えたいことを伝えようとしている。
 △自分の好きな動物の本を選んでいるが、伝えたい語や文を選び出そうとしていない。また、自分の伝えたいことをまとめようとしていない。

○本時の展開 (めあてや学習課題、学習活動、予想される児童の姿、指導の手立て、★評価を行う場面 等)

①学習の見通しもつ。

○自分の好きな動物について、友達と交流することで、自分の伝えたい「すごい」をまとめられるようにすることを伝える。

めあて
 自分のすきなどうぶつの「すごい」と思わせよう。

○並行読書マトリックスを活用し、以下のような目的に応じて交流する相手を選ぶようにする。

交流の目的

同じ本を読んだ友達に「すごい」が分かるように伝える。
 同じ本を読んでいない友達に伝えて、「すごい」が伝わるか確認する。

○学習活動や学習方法を児童に委ね、1時間中で児童が「粘り強さ」を発揮する中で、「学習調整」が行えるようにする。

②友だちとのやりとりを通し、自分の伝えたいことがまとめられるようにする。【A②】【B②】
 ★(行動・発言)

◎予想される児童の姿とそれに対する指導の手立て
 ①自分の伝えたい語や文が見つからない児童
 ・どうして好きな動物を選んだのかを友達に伝えたり、友達が伝えたい語や文を参考にしたりして考えるように促す。

②自分の伝えたい語や文が複数ありすぎてまとめられない児童
 ・友達と交流し、自分の思いを伝えることで自分の考えを整理したり、何度も繰り返し伝えたりするように促す。

③自分の伝えたい語や文が選べ、友達に伝えたい児童
 ・好きな動物の「すごい」について、自分の伝えたい内容を友達に伝え、交流を繰り返すことで、伝える内容を確かに行えるように促す。

③学習を振り返る。

・学びの足あとシートに本時の振り返りを書くように促す。

<想定する○評価の振り返り>

「はっきり言えるかな、ちゃんと伝えられるかな」と思っていたけれど、はっきり言えてよかったです。お家の人にも伝えられそうです。

「自分も上手だったし、友達も上手でした。最後に「ここがすごい」と言ってくれてよかったです。」

「すごいね」とか「分かったよ」と言ってもらえたので、この調子でお家の人に言いたいです。

✔ ポイント4【学習の調整】

授業の始めに交流の目的を確認したことで、児童は、何のために交流をするのかを理解し、自ら交流相手を選び、繰り返し交流に取り組もうとする姿が見られました。



目的に応じた交流相手を選ぶ児童

児童の様子から見取った粘り強さや学習の調整の姿

- ・自分の伝えたいことを見つけるために、自分の好きな動物の本を何度も読み返す姿。
- ・自分の伝えたいことをはっきりさせるために、交流を繰り返そうとする姿。

伝えたいことをはっきりさせるために、交流の時間を多くとることで、やりとりが苦手な子どもも、伝える喜びを実感する機会が多くなり、主体的に交流できるのですね。



C「読むこと(文学的な文章)」の実践事例①

第2学年「ここが大すき!大すきなお話をしようかいしよう」 教材名「スイミー」(光村図書 上)

ポイント2【学習活動】

挿絵を拡大し、そこに「スイミー」を読んで想像したことを書いた児童の吹き出しを貼り合わせたことで、自分の考えだけでなく、友達の考えにもふれることができるようになりました。



吹き出しを貼り合わせた挿絵の一部

国語科単元構想シート		第 2 学年 組() 名) 授業者	単元名「ここが大すき!大すきなお話をしようかいしよう」 全12時間 教材名「スイミー」(光村図書2年上)	
単元目標 (単元で育成を目指す資質・能力) ◎…指導の重点	○身近なことを表す量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味があることに気付く、語彙を豊かにすることができる。 (知識及び技能)(1)オ	評価規準		
	◎場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思考力、判断力、表現力等)C(1)エ ○言葉がもつよさを伝え合ったり、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合ったりする。 「学びに向かう力、人間性等」			
単元で取り上げる言語活動 大好きなお話の中の大好きな場面の主人公の行動について、思ったことや考えたことを中心に、友達に読んだ本を紹介する		知識・技能 身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ	思考・判断・表現 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	主体的に学習に取り組む態度 進んで場面の様子に着目してお話を読み、主人公の行動を想像し、学習課題に沿って、大好きな場面を紹介しようとしている。
単元の流れ ★「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿		指導の手立て 「個別最適な学び」【個】・「協働的な学び」【協】	
①学習のゴールを共有し、学習の見通しをもつ。 ②③教材文の内容の大体を捉える。 ④⑤教材文の主人公の行動や会話から、場面の様子を具体的に想像し、交流する。 ⑥⑦並行読書材を読み、内容の大体を捉え、大好きな場面を見つける。 ⑧⑨並行読書材で主人公の行動や会話から、場面の様子を具体的に想像し、交流する。★ ⑩大好きなお話の紹介文をまとめる。 ⑪⑫大好きなお話を紹介し合い、自分読みたいと感じた1冊を読み、学習を振り返る。	A 主に文章や図、グラフから読み解く力	必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】 主人公のしたことや思ったことを具体的に想像するために、各場面の主人公の行動や会話、挿絵に着目している。 情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】 主人公の行動や会話を根拠にして、主人公の動作や表情、様子などを具体的に想像することで、大好きな場面を選ぼうとしている。 自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】 主人公の動作や表情、様子などについて想像した場面の中から、一番伝えたいことを決め、自分の考えを明確にしている。	B 主に他者とのやりとりから読み解く力 ・レオ＝レオニの作品の中から、主人公が明確になっている作品を10冊程度選び、並行読書の本として用意する。(絵本がいっぱい!)【個】 ・ペープサート「ふきだしくん」を活用して子どもたちの学習意欲を高めていく。【個】 ・教科書教材「スイミー」の全文揭示をし、内容の大体を捉えられるようにする。【個】【協】 ・並行読書した本の記録シートを用意する。【個】 ・友だちが読んだ本や選んだ本がわかるように並行読書マトリクス表にまとめ、児童が目的に応じて交流する相手を選べるようにする。【個】【協】 ・指導者による読み聞かせや朝読書の時間を活用し、並行読書の本に触れる機会を設ける。【個】 ・おすすめの本で交流するときは、同じ本を選んだ児童同士で集まれるようにグルーピングする。【協】 ・本の紹介のときは、できるだけ同じ本が重ならないようにグルーピングする。【協】 ・大好きな場面を付箋で貼ったり、タブレットに記録したりして、「ここが好きだ」という思いを膨らませられるようにする。【個】	

この時間の詳細は、
授業ナビシートへ

ポイント2【学習活動】

教科書教材で学習した内容を、並行読書材での学習に生かせるように教室に掲示しておいたことで、児童は、今までの学習を生かしながら主人公の行動を想像したり、考えを膨らませたりすることができました。



学習したことを掲示しておくことは大切です。特に並行読書材での学習では、教科書教材での学習を振り返ることで、既習と未習が結び付き、児童が主体的に学習に取り組むための手立てとなります。



教科書教材で学習した内容の掲示物



ポイント4【学習の調整】

友達との交流を通して再構築したことを、振り返りの時間に見返すことで、次の学習の見通しをもつ姿が見られました。



学習を振り返る児童

国語科授業ナビシート

小学校 第2学年 組() 名() 授業者

単元名「ここが大きい! 大きなお話をしようかしら!」

第9時/全12時

○本時で育成を目指す資質・能力 (いづれかに○をつける)
() 知識及び技能 () 思考力・判断力・表現力等

(○) 学びに向かう力、人間性等

○本時における「読み解く力」の視点

主人公の行動について、たいことを決め、自分の友達とのやりとりを通して、主人公の行動について想像した場面から、紹介したい「大好きな場面」を選ぶことができる。【B③】

想像した場面の中から、一番伝えを明確にしている。【A③】、主人公の行動について想像した場面から、紹介したい「大好きな場面」を選ぶことができる。

○本時の目標

他者とのやりとりを通して、主人公の行動について想像した場面から、紹介したい「大好きな場面」を選ぶことができる。

○本時の評価規準

評価規準

自分が選んだ並行読書材について、進んで場面の様子に着目してお話を読んで、主人公の行動を想像し、学習課題に沿って、紹介したい大好きな場面を選ぶとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

評価する具体的な児童の姿

○学習状況に合わせて学習方法を選び、絵本を何度も読み返して主人公の行動について想像したり、友達とのやりとりを繰り返して、紹介したい大好きな場面を選ぶとしている。

○友達や指導者とのやりとりを通して、主人公の行動について想像した場面から、紹介したい大好きな場面を選ぶとしている。△他者との交流をしたり、主人公の行動について想像したりしようとせず、紹介したい大好きな場面を選ぶしていない。

○本時の展開 (めあてや学習課題、学習活動、予想される児童の姿、指導の手立て、★評価を行う場面 等)

①学習の見通しをもつ。

めあて

主人公の思ったことや話したことを想像した場面から、紹介したい「大きな場面」を考えよう。

- ・主人公の行動について想像した場面を友達に伝え、感想等をもらったうえで紹介したい大好きな場面を決めることを伝え、児童が見通しをもてるようにする。
- ・必要に応じて友達と自由にやりとりをしてよいことを伝える。
- ・紹介したい大好きな場面が決まったら、指導者のモデルを参考にして紹介の練習をしたり、自分と違う絵本を選んだ友達の大好きな場面を聞いたりするなど、学習状況に応じた学習活動を選択してよいことを伝える。

②友達とのやりとりを通し、自分に合った方法で、紹介したい大好きな場面を考え、交流する。

【A③】【B③】★(行動・発言)

○予想される児童の姿とそれに対する指導の手立て
○少し主人公の行動について想像したい児童

・想像ができた場面を友達に伝えて感想等を求め、大好きな場面を考えるように促す。

○友達に紹介したい大好きな場面を考えたい児童

・候補となる場面を二つほど選び、想像したことを友達に伝え、感想等を求めるように促す。

○好きな場面を決め、想像したことを友達に伝えたい児童

・並行読書マトリックスを掲示し、交流する相手を選ぶようにする。

③学習を振り返る。

・学びの足あとシートに本時の振り返りを書くように促す。

・振り返りの視点として以下を示す。

誰とやりとりをしたかわかったことや考えたこと
まだ少し困っていること

<想定する○評価の振り返り>

「友達に伝えたら、「すてきだね」と言ってくれたから、この場面を大好きな場面にすることにしました。」

「二つの場面を友達に聞いてもらったけど、まだどっちにしようか迷っているので、次の時間で決められるようにしたいです。」

ポイント3【粘り強さ】

児童が大好きな場面を見つけるために、絵本やタブレット、ワークシートなど自分に適したものを選択して、使えるようにしました。そのことで、児童一人ひとりが粘り強く学習に取り組むことができました。



大好きな場面を見せ合う児童



大好きな場面の理由を伝え合う児童

児童の様子から見取った粘り強さや学習の調整の姿

- ・自分の学習状況に応じた学習活動を選択して、大好きな場面を選ぶとしている姿。
- ・友達に紹介したい大好きな場面について、積極的にやりとりを繰り返している姿。

子どもたちが、自分に合った学習方法を選ぶように、児童の学びの姿を想定し、単元構想や授業づくりにおいて、きめ細かな手立てを講じることが大切なんですね。

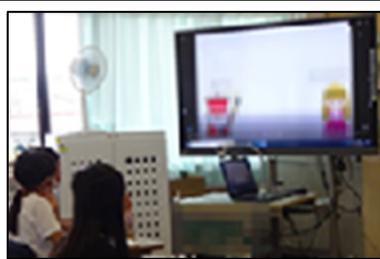


C「読むこと(文学的な文章)」の実践事例②

第4学年「話そう・聞こう・感じよう!ブックミーティング」 教材名「ごんぎつね」(光村図書 下)

ポイント2【学習活動】

指導者が、ブックミーティング(読書座談会)のモデル動画を作成したことで、指導の手立が明確になりました。児童はモデル動画を視聴することで、言語活動のイメージを具体的に持つことができました。



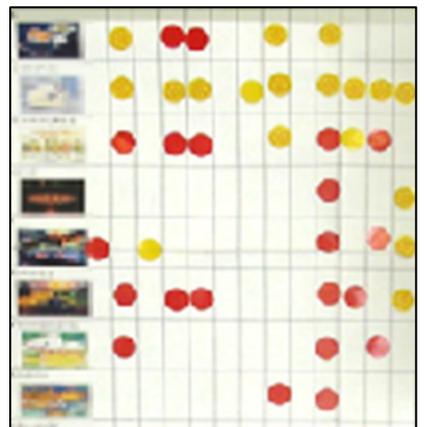
モデル動画を視聴する児童

単元目標		評価規準	
<p>① 単元目標(学習の達成度・能力)</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能】(1)オ</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ</p> <p>○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>	<p>知識・技能</p> <p>様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>学習の見通しをもって、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。</p>
<p>単元指導の重点</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)カ</p> <p>○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>			
<p>単元指導の手立て</p> <p>ブックミーティング(読書座談会)を通して、物語を読んで感じたことや考えたことを共有する。</p>			
<p>単元の流れ</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」を評価する時間</p> <p>①学習のゴールを共有し、学習の見通しをもつ。 ②ブックトークを聞き、新美南吉について知る。 ③「ごんぎつね」を読み、感想を紹介し合う。 ④「ごんぎつね」を読み、気になることや疑問を感じたところを見つける。 ⑤ブックミーティングに向けて、自分の考えを整理し、話し合いたいことを考える。 ⑥ブックミーティング(第1回読書座談会)を行う。物語を読んで考えたことを話し合う。★ ⑦ブックミーティング(第2回読書座談会)を行う。物語を読んで考えたことを話し合う。★ ⑧並行読書材を読み、お気に入りの1冊を決める。 ⑨物語の中から気になることや疑問に感じたところを見つける。 ⑩ブックミーティングに向けて、自分の考えを整理し、話し合いたいことを考える。 ⑪ブックミーティング(第3回読書座談会)を行う。物語を読んで考えたことを話し合う。★ ⑫ブックミーティング(第4回読書座談会)を行う。物語を読んで考えたことを話し合い、学習のまとめと振り返りをする。★</p>	<p>「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿</p> <p>A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】</p> <p>物語を読んで、疑問点を見つけ、みんなで話し合いたいことを考えている。</p> <p>情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】</p> <p>物語を読んで見つけた、気になることや疑問点について、叙述を基にしたり、場面の様子を結びつけたりして、自分なりの考えをもっている。</p> <p>自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】</p> <p>物語を読みながら、友達とのやりとりから、物語の見つけた、気になる点について、自分の考えを比べ、感じ方があることよに気付いている。</p>	<p>B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p> <p>指導の手立て</p> <p>「個別最適な学び」【個】・「協働的な学び」【協】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新美南吉の作品を、並行読書材として用意し、並行読書マトリックスを活用する。【個】 ・並行読書マトリックスは、常時、児童が見られるように掲示しておき、目的に応じて交流相手を選べるようにする。【個・協】 ・司書によるブックトークや教師による読み聞かせを行い、並行読書材の本にふれる機会を設ける。【個】 ・学級の中で人気があった4～5冊を選び、その中からブックミーティングの題材とする本を選ぶ。【個・協】 ・ブックミーティングでは、同じ本を選んだ児童同士でグルーピングする。【協】 ・「ごんぎつね」の全文を掲示し、全文を捉えて内容を読み取れるようにする。【個・協】 ・指導者が作成したブックミーティングのモデル動画を用意し、タブレットでいつでも見返すことができるようにする。【個】 ・振り返りシートを活用し、本時の学習の振り返りと次時の課題を書けるようにする。【個】 ・学習計画、学習の足跡を掲示し、児童が必要に応じて振り返ることができるようにする。【個・協】 	

この時間の詳細は、
授業ナビシートへ

ポイント4【学習の調整】

並行読書材への興味を高め、幅広く読書をするための手立てとして、「ブックトーク」や「並行読書マトリックス」を活用したことで、児童は、新美南吉作品の中から、お気に入りの一冊を見つけることができました。



新美南吉シリーズの並行読書マトリックス



並行読書マトリックスには、自分が読んだ本に黄色のシール、お気に入りの本に赤いシールを貼っていますね。並行読書マトリックスを活用することで、誰がどんな本を読んだのか一目で分かります。

国語科授業ナビシート

小学校 第4学年 組()名 授業者

単元名「話そう・聞こう・感じよう!ブックミーティング」 第12時/全12時

○本時で育成を目指す資質・能力 (いずれかに○をつける)
()知識及び技能 ()思考力・判断力・表現力等

(○)学びに向かう力、人間性等

○本時における「読み解く力」の視点

物語を読んで、見つけた気になることや疑問点について、自分なりの考えを、根拠を示しながら伝えている。【A③】
友達とのやりとりから、物語を読んで、見つけた気になることや疑問点について、自分と友達の考えを比べ、感じ方に違いがあることに気付いている。【B③】

○本時の目標

お気に入りの作品について考えたことを交流し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。

○本時の評価規準

評価規準

学習の見直しをもって読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

評価する具体的な児童の姿

◎ブックミーティングの中で、自分の意見と友達の意見を比べ、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付き、さまざまなテーマについて友達とやりとりを繰り返そうとしている。

○ブックミーティングの中で、自分の意見と友達の意見を比べ、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付こうとしている。

△ブックミーティングの中で、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりしているが、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付こうとしていない。

○本時の展開 (めあてや学習課題、学習活動、予想される児童の姿、指導の手立て、★評価を行う場面 等)

①学習の見直しをもつ。

・前時までの振り返りと本時のめあての確認をする。

めあて

お気に入りの本について、友達と語りつくそう!!

・ブックミーティングのポイントを確認し、交流の際に意識できるようにする。

・根拠があいまいな意見については、どの叙述から考えたのかを質問したり考えたりしながら進めることを伝える。

ブックミーティングのポイント

1. 自分の考えを言う。
2. 自分の考えと友達の考えと比べ、互いの考えのよいところを見つける。
3. テーマについて、自分の考えをレベルアップする。

②ブックミーティングを通して、意見や感想を共有することで、互いの感じ方の違いやよさに気づく。

【A③】【B③】★(発言・ワークシート)

◎予想される児童の姿とそれに対する指導の手立て

・テーマについて、意見発表会になってしまっている児童

・指導者が作成したブックミーティングのモデル動画を参考に、自分の意見と友達の意見を比べながらやりとりするように促す。

・友達の考えを聞き、自分の考えとの相違点とその理由について友達と尋ね合えるようにする。

・テーマについて、感じ方の違いまで考えるところにいる児童

・話し合った内容や友達の考えの中で、特に印象に残ったこと、その理由について尋ね、自分の考えと比べて感じたことを、グループ内で伝え合うように促す。

・テーマについて、グループ内で話した児童

・友達の考えの中で、自分と違っていいなと思ったことを伝え合ったり、新たなテーマをグループで考えたり、さらに、ブックミーティングに取り組めるようにする。

③学習を振り返る。★(ワークシート)

・ブックミーティングを通して、お気に入りの作品について考えたことを、根拠を明確にして振り返りシートに書くように促す。

・交流を通して、考えが広がったこと、疑問に残ったことなど、本時で自分が考えたことをまとめるように促す。

<想定する○評価の振り返り>

「友達と自分の意見を比べてみて、同じテーマだけど、考えたことや、その理由が全然違うことに気付きました。他の本でもやってみたいです。」

「友達の意見が、自分が考えていたことと違って、「なるほどな」と思いました。新しい考え方が分かってよかったです。」

✔ポイント3【粘り強さ】

児童の学習の様子や振り返りから、指導者は課題解決に向かうための効果的な話し方や、聞き方など、ブックミーティングのポイントを見いだしました。それを児童と確認したことで、自分の考えを整理する児童の姿や、並行読書材の文章を基に、粘り強く自分の考えを伝え合う児童の姿が見られました。

ブックミーティングを繰り返していくことで、単元の目標に迫ることができました。



学級で共有した「ブックミーティングのポイント」



自分の考えを整理する児童



粘り強く考えを伝え合う児童

児童の様子から見取った粘り強さや学習の調整の姿

- ・自分と友達の感じ方の違いに気付くために、交流を繰り返そうとする姿。
- ・グループごとに交流する時間と個人で考えを整理する時間を、自ら使い分け、学習に取り組む姿。

児童が目的に応じた交流を行う際、学級全員で交流のポイントを確認してから、取り組むことで、今日はどんなことに気を付けて交流すればいいのか、しっかり理解して学習に取り組むことができるんですね。



おわりに

センターン、今回は授業づくりのポイントや、実践事例の紹介をありがとうございました。とても勉強になりました。



それはよかった！
これからも、滋賀県の子どもたちのために、一緒にがんばっていきましょう。

今回紹介してもらった授業のことや、研究のことについて、もう少し詳しく知りたくなりました。



そんな時は、滋賀県総合教育センターのホームページをのぞいてみてください。研究論文やワークシートも掲載しています。

サポートガイドの中で使用した「国語科単元構想シート」や「国語科授業ナビシート」は下の二次元コードからアクセスできますので、必要に応じて使ってみてください。

「国語科単元構想シート」「国語科授業ナビシート」とシートを活用した実践事例のダウンロードはこちら



ありがとうございました。
子どもたちが主体となる授業に向け、これからもがんばります！



令和4年度 滋賀県総合教育センター
小学校国語科指導力向上プロジェクト研究のメンバー

トータルアドバイザー

京都女子大学発達教育学部教授 水戸部修治

専門委員

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課指導主事 井関 香織

研究委員

愛荘町立秦荘東小学校主幹教諭 海外万希子

東近江市立愛東北小学校教諭 米倉 健一

米原市立坂田小学校教諭 松永 由衣

野洲市立中主小学校教諭 林 佳子

長浜市立びわ南小学校教諭 武田 圭右

滋賀県総合教育センター

辻 亮

寺川 絵理



このサポートガイドは、これから国語科の授業づくりを学んでいきたい先生方や、国語科の授業改善に取り組んでいきたい先生方に活用していただくことを想定しております。5つの実践事例を参考に、児童が主体となる国語科の授業づくりを、県内の先生方の力で実現し、児童が主体となる授業の輪を広げていきましょう。

